

審査の結果の要旨

氏名 伊藤 いずみ

現代は情報社会であり、21世紀になってからはインターネットが広く社会に浸透し、新しい形態であるネットコミュニティが誕生している。また風景についても、2000年以降、景観法制定、文化財保護法改訂（重要文化的景観）、ニューツーリズムの台頭など、風景に関する制度・政策、潮流に大きな変化がみられ、転機を迎えている。

本研究の目的は、インターネットが普及した現代における風景の生成過程と、風景が多様化する状況を、インターネットの発達に伴う情報の伝達・共有の特徴との関係から明らかにすることであり、細分化した目的は以下のとおりである。1) 現代に出現した風景の様相とその生成過程を明らかにし、インターネットを利用した情報伝達の特徴を考察する。2) 戦後の風景に対する選好の変遷から、風景の多様性の状況を明らかにし、情報伝達との関連を考察する。3) 風景が社会化し風景観として成立する要因について、事例の分析をとおして情報伝達の観点から考察する。

第一章では、背景と研究の目的を記述し、研究の構成と位置づけを示した。また、情報社会、情報技術の発展と現在の状況を解説している。

第二章では、本研究の主要概念である、風景の発展段階における「風景化」「風景観」について定義を行い、風景化に関わる情報伝達モデルを策定している。集団表象としての風景や風景観が成立する過程を「風景の発展段階」として示し、「風景化」および「風景観」の概念や関係について整理・提示している。そして、過去の風景観の事例をモデルに適用することを通して、現代における風景化の特徴を情報伝達の面から考察し、(1)情報が自律的に拡散すること、(2)コミュニティ形態が多様で複合すること、(3)情報の種類、性質が変容してきたこと、(4)従来の情報伝達プロセスや発信主体が併存すること、(5)情報の蓄積により情報伝達が非同期であることを抽出している。

第三章では、アニメ聖地巡礼を事例として現代の風景の一つの様相を明らかにするとともに、第二章で提示した風景化の情報伝達の特徴との関連を考察している。

162 作品のアニメ聖地について調査し、全作品のツイート情報を取得して過去の作品に対しても情報発信が継続していることを明らかにするとともに、著名な作品のブログ分析からは、ブログ情報とマスメディアや地域のイベントが連動すること、場所やイベントに関する情報を参照し、行動し、情報発信するというサイクルが見られることを明らかにして

いる。またツイッターの情報からアニメ聖地を特定する時期を分析し、作品の公式サイトや地元のサイトなどの情報を参照し転送して拡散することともに、フォロワー分析から少数のユーザーにフォロワー数が集中することから、スケールフリーネットワークの性質があり、HUBが存在すると考察している。

第四章では、戦後の風景に関する百選を事例に、現代の風景の多様性の状況を明らかにするとともに、第二章で提示した情報伝達の特徴との関連を考察している。

戦後に選定された51個の百選等の比較分析から、風景の種別が自然景中心から文化的景観、産業景観などの割合が増加しており、対象の広がりが増えた。ただし、以前の選定地が全て変化するのではなく、風景に対する見方が重層的に多様化してきたと考察している。さらに平成百景の属性分析から「安定性 \leftrightarrow 流動性」「名所性 \leftrightarrow 新規性」の軸が見出され、従来と同じ安定的な新しさと、風景に没入する流動的な新しさがあり、かつての名所の継続とともに、新しい価値への指向という重層的な多様性を指摘している。

第五章では、風景の発展段階において、風景化の後、風景が社会化し風景観として成立する要因について、事例の分析をとおして情報伝達の観点から考察している。現代における風景観形成の事例として産業景観をとりあげ、産業景観を学術的・文化財的意義から価値を広める活動とともに、純粹に“カタチ”として愛好するドボクエンターテイメント、さらに地域振興に利用しようという活動が、互いに情報を参照することやコミュニティの協働などがあって、社会に認知され一定の価値が認められてきたことを明らかにしている。

第六章では、本研究の結論をまとめている。

以上、本論文は現代における風景の生成過程と様相を、インターネットが普及した社会における情報伝達の特徴との関係から検討したものである。そして、その情報伝達はHUBの情報の引用と、自らの行動（アニメ聖地の発見、巡礼の報告）の発信が複合し自律的に拡散すること、コミュニティは複合的であること、また、情報伝達のプロセスが複合して情報の蓄積が進み重層的になることを明らかにするとともに、複数の情報発信主体が互いに情報を参照して拡大につなげる間メディア性、規模や性格の異なるコミュニティが連携する間コミュニティ性が風景観の成立につながると考察している。これらの研究成果は、学術上応用上寄与するところが少なくない。よって、審査委員一同は本論文が博士（農学）の学位論文として価値あるものと認めた。